

精巣捻転症の診断における好中球・リンパ球比の有用性の検討

日本赤十字社和歌山医療センター泌尿器科

吉川和朗、丸野皓平、中保良太、高橋俊文、山田祐也、中嶋正和、玉置雅弘、伊藤哲之

【目的】精巣捻転は早急な処置を要する疾患であるが、小児の急性陰嚢症は鑑別が容易でない場合が多い。より客観的で正確に精巣捻転を診断するために、今回当科で手術を施行した精巣捻転症例について、血液検査所見を検討し、特に好中球・リンパ球比（NLR）の有用性を検討した。

【方法】2009年12月から2024年10月に当科で手術を施行した急性陰嚢症81例の身体所見、超音波所見、血液検査所見等の臨床的特徴に関して後方視的に検討した。

【結果】18歳未満の急性陰嚢症に対して手術を施行した81例中精巣捻転症は55例、非捻転症例は26例であった。年齢は捻転症例で中央値14歳、非捻転症例で10歳であり、捻転症例の年齢が有意に高かった（ $P<0.001$ ）。捻転症例の好中球数は中央値 $7,448/\mu\text{l}$ と有意に高く（非捻転症例 $3,840/\mu\text{l}$ 、 $P<0.001$ ）、リンパ球数は中央値 $1,938/\mu\text{l}$ と有意に低く（非捻転症例 $2,790/\mu\text{l}$ 、 $P<0.001$ ）、捻転症例のNLRは中央値3.81と有意に高かった（非捻転症例1.51、 $P<0.001$ ）。精巣捻転の診断におけるROC曲線のAUCは好中球数が0.82、リンパ球数は0.78、NLRは0.86であり、NLRが診断に最も有用と考えられた。

【結論】精巣捻転症は迅速な診断と手術治療が必要であり、より正確な診断で精巣捻転症例の見逃しを回避する必要がある。一方、非捻転症例も正確に診断し、侵襲的で不必要な手術を回避する必要がある。今回得られた血液検査所見を評価することで、客観的により正確な精巣捻転症の診断ができる可能性がある。